



令和5年1月31日(火) 発行

校長 栗原 友恵

北九州市小倉北区昭和町16番1号

HP: www.kita9.ed.jp/nakashima-e/

TEL: (093) 921-1690

<学校教育目標>

体・徳・知 調和のとれた心身ともに健康な子どもの育成

<目指す子ども像>

○相手の立場に立って考える思いやりのある子ども

○すすんで学び、自ら考え、表現する子ども

○元気に学び、すすんで運動に取り組む子ども

<目指す学校像>

○安全な学校 ○温かい学校

○笑顔があふれる学校

○「中島小大好き」と言える学校

○成長(学習)し続ける学校

○保護者・地域・関係機関と連携する学校

全国学力・学習状況調査 特集号

今年度4月19日(火)に行われた小学6年生及び中学3年生を対象とする「全国学力・学習状況調査」につきまして、個人の結果は既にお知らせしています。今回は、その結果を基に、今後の学習についてどのように取り組んでいくかをまとめました。

令和4年度全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数、理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施しました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

	学力調査の分析(傾向や特徴)
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に、全国平均正答率を下回っている。 ・「読むこと」領域は、比較的正答率が高い。 ・問題形式として、記述式は全国平均正答率を上回っているが、選択式は下回っている。 ・すべての問題に対して、無回答率は平均5%以下で、全国平均無回答率を下回っている。
数学	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的には、全国平均正答率を上回っている。 ・「数と計算」領域はよくできているが、「データの活用」領域が全国平均正答率を下回っている。 ・問題形式として、短答式及び記述式は全国平均正答率を上回っているが、選択式は下回っている。 ・ほとんどの問題に対して、無回答率は0%で、全国平均無回答率を下回っている。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に全国平均正答率を下回っている。 ・「生命」を柱とする領域は比較的正答率が高いが、「粒子」を柱とする領域は正答率が低い。 ・問題形式として、記述式は全国平均正答率を上回っているが、選択式や短答式は全国平均正答率を下回っている。



2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

- ・学校での学習に関する項目では、「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」に対し、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合は全国平均を上回っている。また、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対しても、全国平均を上回っていた。
- ・家庭等での学習に関する項目では、「自分で計画を立てて勉強をしていますか」に対し、「よくしている」や「ときどきしている」の割合は全国平均より高いが、「学校の授業時間以外に1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」に対し、30分以上の割合は全国平均を下回っている。家庭学習についての見直しが必要である。
- ・ICTの活用に関する項目では、「5年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか」の割合は、全国平均より上回っていた。
- ・学校の楽しさに関する項目では、「人と違う意見について考えるのは楽しい」に対し、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合は全国平均を上回っていた。しかし、「友達と協力するのは楽しい」の割合は全国平均を下回っていた。
- ・自尊感情に関する項目では、「自分にはよいところがあると思う」の割合は、全国平均を下回っていた。学校生活の様々な場面で、自尊感情を高める手立てが必要である。
- ・生活習慣に関する項目では、「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」に対し、「している」や「どちらかといえば、している」の割合は全国平均を下回っていた。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- ・国語については、特に選択式の問題での正答率が低い。これは、学習内容の理解が曖昧であることが原因と考えられる。基礎学力の向上を図りながら、1時間1時間の授業の中で確実に学習内容を理解させるようにする。
- ・算数については、記述式の問題において全国平均正答率を上回っているものの、十分とは言えない。「問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書く」「言葉や数、式を使って、わけや求め方を書く」等、書く活動を充実させた授業づくりに取り組む。
- ・理科については、全国平均正答率を下回っている。特に、事実をもとに問題を見いだすことや分かりやすく結果をまとめることが苦手と見られる。今後、更に問題解決学習や体験学習を多く取り入れた授業づくりに取り組む。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・各学年の学習内容を確認し、家庭学習の内容や量について全教職員で共通理解を図り、全校での取組としていく。日々の児童への指導はもちろん、家庭学習の定着においても、担任だけでなく全教職員でサポートしていく。
- ・ゲームの時間が長いことから、家庭と連携し、放課後の過ごし方の指導を機会を捉えて行う。
- ・児童や保護者を対象に実施している「学期末アンケート」(年間3回)を通して、児童の学びや生活の実態を的確に把握し、取組を進めていく。

